



平成 25 年 3 月 22 日

Bion-M1 ミッション国際宇宙教育実験へ参加

概要：ロシア科学アカデミー生物医学研究所とロシア連邦宇宙局が実施する Bion-M1 ミッション国際宇宙教育実験に参加し、植物種子と昆虫幼虫をロシア人工衛星 Bion-M1 に搭載し約 1 ヶ月間地球軌道上を周回した後に回収します。子供たちが「宇宙を旅した種子」や「宇宙を旅した昆虫幼虫」を栽培飼育して宇宙環境が植物種子や昆虫幼虫の生存や成長に及ぼす影響を観察します。

1. 名 称 : Bion-M1 (バイオン-エムワン) ミッション国際宇宙教育実験
2. 日 時 : 平成 25 年 4 月～
3. 参加者 : 笠岡ひまわり復興支援プロジェクト (萬木善之代表)
4. 日 程 : Bion-M1 打ち上げ予定 : 2013 年 4 月

種子、幼虫配布予定 : 打ち上げから約 2 ヶ月後

【国際宇宙教育実験の背景、目的について】

岡山大学資源植物科学研究所の杉本学 (すぎもとまなぶ) 准教授はロシア連邦国立科学センター生物医学研究所 Vladimir Sychev (ウラジミール シチョフ) 博士と、ロシア宇宙科学プログラム及び両研究所協力協定のもと、宇宙環境へ曝露する生物試料に関する科学的解析について共同研究を平成 18 年度から開始しています。この度、ロシア科学アカデミー生物医学研究所とロシア連邦宇宙局が実施する Bion-M1 (バイオン-エムワン) ミッション国際宇宙教育実験への参加について協力要請があり、杉本准教授が日本側コーディネーターとなり笠岡ひまわり復興支援プロジェクト (萬木善之代表 まんきよしゆき) が参加することになりました。

Bion-M1 ミッションの国際宇宙教育実験とは、本年 4 月カザフスタン共和国にあるバイコヌール宇宙基地から打ち上げ予定であるロシア無人宇宙船「Bion-M1」を利用したものです。Bion-M1 に植物種子や昆虫幼虫を搭載して約 1 ヶ月間地球軌道上を周回した後に回収し、子供たちが「宇宙を旅した種子」や「宇宙を旅した昆虫幼虫」を栽培飼育して宇宙環境が植物種子や昆虫幼虫の生存や成長に及ぼす影響を観察します。

今回のプログラムには笠岡ひまわり復興支援プロジェクトのほか、ロシアと米国の子供たちが参加予定です。各国で得た観察データはインターネット上のホームページで発表し、世界各国の観察データと比較することも計画しています



PRESS RELEASE

【期待される効果】

宇宙は子供たちにとって非常に魅力的であり好奇心をかきたてるため、宇宙実験を利用した教育実験は子供たちの科学や宇宙への関心を導くのに有効であると考えます。本実験への参加により、子供たちが科学や宇宙に対する強い興味をもつきっかけとなると同時に夢や未来を感じる事が期待されます。

【今後の予定】

種子と幼虫の配布は打ち上げから約2ヶ月後の予定です。笠岡ひまわり復興支援プロジェクトでは種子を笠岡と東日本大震災で被災した福島の子供たちに届ける予定です。

(状況により変更もありえますので、詳細な日程等につきましては杉本にご確認下さい。)

【参照】

細胞分子生化学グループホームページ
<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/cytomol/index-j.html>

笠岡ひまわり復興支援プロジェクトホームページ
<http://ameblo.jp/himawari-tane311/>

(萬木善之代表 Tel : 070-5670-1130、E-mail : f-man@gaea.ocn.ne.jp)

＜お問い合わせ＞
岡山大学資源植物科学研究所
准教授 杉本 学
(電話番号) 代 表 : 086-424-1661
研究室 : 086-434-1253
E-mail : manabus@rib.okayama-u.ac.jp